



恒例の徳島市コミュニティまつりは、今年度は第六プーロックが担当。昨年十月二十三日の日に勝占中部コミュニティをメイン会場に、徳島市ガラススタジオをサブ会場として開かれました。

この日は朝から秋晴れの絶好のイベント日和となり、野外で実施されたペタンク大会や健康ウォークは、予想を上回る参加者。担当者は汗だくの活躍ぶりでした。

勝占中部コミセンでは、原市長をお迎えして開会行事の後、各コミュニティ協議

勝占中部コミュニティ協議会

第二十五回 徳島市コミュニティまつり



徳島市コミュニティ協議会
 〒770-8571
 徳島市幸町2丁目5番地
 TEL(088)621-5510
 FAX(088)621-5511

会代表によるカラオケ大会が開催され、日頃の練習の成果を披露しました。また淡交会お茶席や料理自慢の有志によるうどん模擬店も開かれ、たくさんの方々が賑わいました。ガラススタジオでの制作体験も好評で、後日、お仲間と再体験に訪れた方もあったようです。午後からのお楽しみ抽選会には、豪華な景品も並び、会場は熱気ムンムン。大盛況でした。

一方、野外会場の物品即売テントでは、市民協働課のポップコーンやブロッタ内の各コミュニティの特色を活かした物品が提供され、短時間で完売するテントが続出。賑わいのうちに終了しました。



物品即売

第二十五回という記念すべき年だけに、地元コミュニティ協議会には正直、不安の声もありましたが、勝占中部地区の良さを知ってもらおう絶好の機会ととらえ、「おもてなし」の心で「ロマンとやすらぎの里かつら」の思いをお土産に持ち帰っていただくとうと、地域社会が一つに盛り上がりました。

この時期は地域行事が目白押し。駐車場の確保が心配されましたが、地元の株式会社あらた様や、住友医院様のご好意で解決。大きな力添えをいただきました。また、お茶席に南部中学校の生徒たちが積極的にボランティアとして参加するなど、コミュニティ



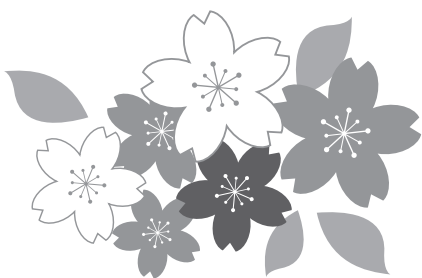
ペタンク大会

の若い担い手の活躍も力強く感じられました。

徳島市コミュニティまつりにご支援ご協力をいただいた皆さまに、御礼を申しあげます。



ガラス工芸体験



高齢者による健やかな 子どもを育てる取り組み

東富田コミュニティ協議会

東富田地区では、子どもたちが健やかに育って欲しいとの願いから、街をあげてこの取り組みを進めています。その一つとして、高齢者の会である寿会が、長年にわたり、コミセンと近隣する富田小学校の子どもたちと年間を通して交流をしています。

この実践を始めたきっかけは、核家族化が進む中で、小



小学4年生との交流

学校の担任の先生から、近年、子どもたちが高齢者と交わる機会が少なくなり、高齢者を正しく理解できない子どもたちが多くなってきていることから、何かの形で、地域の高齢者の皆さまと交流させていただけないかとの相談があったことでした。この話を聞き、寿会でもちょうどこの時期に、全国各地で小学生が被害者と



戦争体験を語る交流会

なる多くの事件が発生し、地域の教育力が問われている中、何か学校のお手伝いのできないかとの話が出ていたことと重なり、すぐにこの実践が始まりました。

主な取り組みとしては

- 一、富田小学校 低学年児童 の下校時、安全に下校できるように

通学路の巡回

二、小学校四年生と総合的な学習の時間を利用して、一年間を通して戦争体験の話を聞かせる対話集会、子どもの学習成果を披露する交流会、物作りの指導など

- 三、小学校一年生の生活科の時間を活用しての昔遊びの指導
- 四、毎日「寿ルーム」



小学1年生の昔遊びの指導

でのお手玉を中心として、昔遊びの指導

この「寿ルーム」は十数年前に、寿会が、東富田小学校の児童に大きく関わるようになってきたことから、学校長が、このように関わってくれるなら、交流がしやすいようにと、空き教室の一つを「寿ルーム」として開放してくれました。

「寿ルーム」は主として、月曜日から金曜日まで（平成二十六年度からは火曜日から木曜日までになる）毎日、寿会員が数名ずつ班編制をし、



「寿チーム」での昔遊びの指導

交代で午前十時二十分～十時四十分までの二十分間の休憩時間を利用して、昔遊びを指導する交流をしています。最近では婦人会や更生保護女性会等からの協力が得られるようになってきています。



丈六コミュニティ活動推進事業

丈六コミュニティ協議会

会長 梅本 辰雄

丈六コミュニティセンターは体育館が備わった施設として稼働率も高く、多くの地域の皆さんが体育館や洋室・和室などを使ってスポーツや健康体操・サークル・趣味などさまざまな活動を行い、地域のコミュニティの場として利用しています。



今回は丈六コミュニティ協議会が支援しています丈六コミュニティ活動推進事業の活動内容について少しご紹介します。

(一) 丈六更生保護女性会

(会員三十五名)

更生保護女性会は、女性の立場から地域の関係諸団体と協力して、地域の子どもたちを温かく見守り、少しでも犯罪や非行の少ない明るく住みよい地域づくりに努めています。例年、道びか事業(通学路の清掃)、地域の子どもたちとの交流、年賀状の作成(むつみ会)、保育所との交流会

(花の寄せ植え、チャリティーバザーなどにも取り組んでいます。

(二) 丈六グランドゴルフクラブ

(会員十八名)

近くの病院のグランドを使って日々練習を行い、病院の患者さんとの交流や会員相互の親睦を深め、お互いに技量を高め、仲間同士のコミュニケーションを深めています。また、地域の交流大会や多良町地区親睦大会にも参加し、楽しく地域の活性化に努めています。



社会福祉協議会主催親睦グランドゴルフ大会

(三) 丈六早苗会

(会員六十六名)

今年度、新しく丈六早苗会として結成されました。市老連や県老連、地域の各種団体の活動とともに、地域の会員の健康増進と楽しみを主とした活動を行っています。本年度は六月に丈六コミュニティセンターの生垣や樹木の剪定奉仕作業を行っていただきました。



丈六早苗会の樹木等の剪定奉仕作業

また十月にはセンターでの丈六早苗会の大運動会が行われ、たくさんの方々が参加され楽しく一日を過ごしました。

(四) 丈六せらぎ会和太鼓クラブ (会員大人九名・子ども九名) 現在、小学校の和太鼓クラブの指導や地域の夏祭り、病院や福祉施設のイベントに出演し、地域の活性化に努めています。和太鼓クラブが町



丈六早苗大運動会

丈六早苗会大運動会プログラム	
1	ラジオ体操
2	長くなーれ!!
3	ボールころがし
4	風船割り
5	パン食い競争
6	私を落とさないで
7	紅白玉入れ

(五) その他 丈六民踊クラブ・コンピュータ芸教室・茶道クラブなども地域で活発に活動を行っています。



佐古郷土誌の 発刊について

佐古コミュニティ協議会
村澤 裕



佐古コミュニティ協議会と佐古公民館で、二〇〇一年完成の佐古コミュニティセンター創立十周年記念行事の一環として、二〇一一年に地区の有識者による佐古刊行物発刊委員会を立ち上げ、三年六カ月がかりで編集し、一九五四年に発刊された「佐古郷土誌」の続編となる「続佐古郷土誌」を二〇一五年三月三十一日発刊いたしました。

地区の歴史や商工業、風習など、二十九章で構成し、主として一九五六年から二〇一三年の歴史や文化を紹介しています。

現在の佐古地区の姿を後世に伝えるため、神社、仏閣、教会の他、佐古川や田宮川に架かる橋の写真を掲載しています。

また、佐古シルバークラブ連合会や佐古婦人会などの各種団体の活動も記載されています。

四百部を作成し、協賛主や広告主へ二百二十部お送りし、地区の小中学校、市内の高校、大学、図書館等に百三十二部を寄贈し、残部を販売中です。残部数は十五部となりました。佐古地区に縁の深い方などが購入されています。一部一万円です。ぜひ一部身近に置かれてはいかがですか。

公立学校の環境改善

川内南コミュニティ協議会
会長 河井 宏紀

川内南小学校の校庭周辺に松・楠等大小、多様な木が植樹されており、この樹木の内、楠等何年かに一回枝き

りすればよい木は予算が付きませんが、松の木は、毎年剪定する必要があるため予算化が難しく、そのため、学校では教職員・PTA等と協力して二十本近い松の木を管理しています。松の剪定は難しく、奥が深いのが、子育てと同じで、一本一本個性があり、葉や枝の硬い木、柔らかい木等いろいろです。その木の特性にあった整枝に仕上げるのが難しく、時間がかかりますが、仕上げた達成感は特別です。

今、個人の家で、手入れ、落ち葉、虫嫌いなのか、植木の一本もなく硬い舗装の庭が見られるようになりました。本来、日本人は、長屋暮らしの身でも古い鍋・釜に花を植えたたりする、自然を愛し、心優しい国民だと思えます。

平安時代にも見られ、襖絵にも欠くことができなく、長い歴史と伝統の庭木として松の木を大切にし、外国人も驚く日本独自の庭園のある景観を残してほしいものです。

昨年、難産の末、地球温暖化対策が決まりましたが、酸素の供給、気温を下げる、多様な生物を育む森林の大切さは認識されています。アマゾ



ンの大森林も、一本の木から成り立っています。教育の場でも、身近にある木の大切さに触れてほしいものです。

徳島市の三木市長時代、徳島大学常三島キャンパスの塀が、老朽化で景観を損ねていると指摘し、改善されたことがあります。

公立学校では無理ですが、某私立中学校は、施設整備費として月額一万七千円徴収し、建物の維持改修・植栽管理等に充当しています。公立でも耐震化、教室の空調化を進めておりますが、樹木管理だけでなく、老朽化した外壁の改修等を進め、環境改善に市役所・住民共に協力し、避難所でもある学校を景観上の苦情が無いようにすべきだと思います。

災害被害を最小に

北井上地区自主防災連合会

会長 小林 和夫

想定される南海トラフ大地震に対し、北井上地区でも各自主防災組織が連携し、自主的に防災活動を行う連合会が発足しました。

東日本大震災発災から五年が過ぎました。太平洋沿岸を襲った高い津波は、いまだに忘れられません。

茨城県水戸市の東に大洗町があります。太平洋に面した人口約一万八千人の町ですが、この町も、巨大地震とそれに伴う大津波によって、想像を絶する被害がありました。地震により亡くなられた方が一名、六名の方が怪我をされ、また家屋の全壊（二戸）、半壊家屋（十九戸）、一部損壊家屋（八百九十八戸）、津波

による浸水被害、がけ崩れ、港湾・漁港施設や道路・鉄道の損壊などの甚大な被害がありました。しかしながら、日頃からの防災組織の活動や防災に対する意識の高さによって、町内での津波による人的な被害がなかったとのことです。津波は一波二波と第五波まで襲ってきました。中でも第三波は四、九メートルを記録しています。港の埠頭には多くの船が津波で打ち上げられ、町の中は車が流されていました。地震発生後、直ちに防災無線によるサイレン吹鳴、避難勧告放送を始めています。「緊急避難命令、緊急避難命令、至急高台に避難せよ」と繰り返して放送されています。これにより、人的な被害がなかったとのことです。震災後の復旧も素早く、一カ月ほどで電気・水道等のライフラインがほぼ復旧、避難所も一時十七カ所、約三千四百名が避難していましたが、それも閉鎖できています。

「安に居て危を思う」であります。平和のときでも、危難・非常の場合を想定して常に備えを怠りなくしておく。そうすれば、不測の災難に遭遇し

ても、慌てなくてすみます。地震を防ぐことはできませんが、被害を最小限に抑えることはできます。そのためには防災力を育てることが大切に

平成二十七年 度

先進地視察研修報告

徳島市コミュニティ連絡協議会事務局

徳島市コミュニティ連絡協議会では毎年、先進地視察研修を行っております。昨年は島根県雲南市の波多交流センターを訪問し、まず、雲南市役所の職員から地域自主組織についてお話を伺いました。

雲南市では現在三十の地域自主組織があり、「自らの地域



波多交流センターでの視察研修

なると思います。

想定される南海トラフ大地震の一撃からのちを守ってまいりましょう。

(北井上地区コミュニティ協議会)

は自ら治める」をモットーに、各地域で独自の活動を行っています。廃校を利用した宿泊施設の運営や、田舎料理レストランの運営、地域住民による預かり保育、健康体操普及推進、水道検針による声かけ・要援護者の見守りなどその活動は様々です。



はたマーケット

次に、その中の一つ、波多コミュニティ協議会の活動について、波多コミュニティ協議会の方と意見交換を交えながらお話を伺いました。

波多コミュニティ協議会は、波多地区の小売店が無くなったことをきっかけに、「はたマーケット」という小規模小売店の運営を始めました。買い物弱者である高齢者や、車を持たない方に特に好評だということでした。また、送迎サービス用の車も所有しており、スタッフが忙しいときには、登録された地域住民約二十人が運転手として買い物客の送迎をしているそうです。研修後には実際の店舗を見学させていただきました。研修参加者もたくさん買い物をしていました。

他にも波多温泉満湯の湯の運営や、夏休み自然体験合宿の開催、進学・就職などで県外へ出ていった住民に広報紙を発送し、地元の状態をお知らせするなど、地域に愛着を持つてもらえるような活動がされています。

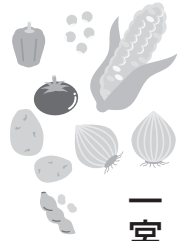
研修参加者は、それぞれの地域の今後の活動の参考になればと、熱心に質問をしていました。

みんなが先生

一宮下町づくり推進協議会

料理教室「四季の会」

会長 中畑 英美子



平成二十六年八月、一宮コミセンの日除けに植えられていたゴーヤの実を使って、佃煮を作りました。食べた人から「作り方を教えてほしい」と言われ、コミセンに十人が集まり講習会を行いました。このときの話し合いで、みん

なで順番に先生となり、家庭料理を教え合うこととなりました。教えることは頭を使い老化予防になるのではと、料理の講習を続けることとしました。会の名称も「四季の会」と決まり、活動していくこととなりました。月一度行つて



味噌汁の作り方 H27.10月一宮コミセンにて

いるこの会の活動も、麺類、イタリアン、和風、洋風、正月料理、和菓子と内容も豊富で、メンバーも今では二十人となり、四カ月先までの献立と先生も決まっています。二十七年年度になり、夏休みに入る少し前の七月、一宮小学校から三・四年生の児童が学校菜園で育てた野菜を使い、ピザの作り方を教えてほ

しいと話があり、小学校の家庭科でピザを作りました。また、そのとき一年生の児童がコミセンの日除けに植えたゴーヤも収穫していたので、途中から一年生も加わり、甘くて少し苦いゴーヤジュースと、彩りよく焼き上がったピザをみんなが美味しくいただきました。

十月には、五年生の児童が参加し、昆布、鰹節、いりこを使った出汁の取り方や、具材の切り方などを教えながら味噌汁を作りました。六年生

の児童からは、学校新聞の取材として、家庭料理で工夫すること等いろいろな質問を受けました。十一月に一宮小学校で行われる徳島県家庭科研究大会に向けて、子どもたちは真剣に取り組んでいました。

研究大会当日、五年生は大勢の視線の中、落ち着いて手際よく味噌汁を作るこ



徳島県小学校家庭科研究大会 H27.11月 一宮小学校にて

とができました。その場に「四季の会」の代表者も招かれ、味噌汁をいただきました。

このように大人たちで始めた料理教室が、小学校の子どもたちまで広がったことをうれしく思います。これからは「みんなが先生」の気持ちを忘れず、新しい料理に挑戦していきたいと思えます。今後は、高齢化社会が進む中、地域の一人暮らしの方や、男性にも呼びかけ、さらに活動を広げていきたいと考えております。

編集後記

日本のさくら名所百選に西部公園が選ばれています。徳島城公園に比べ、戦後から加茂名地区の人々の熱いさくら愛と協力態勢があったからだと言われています。

今、地方創生が大きな課題となってきました。魅力と活力ある町づくりに市民一丸となって取り組まなければなりません。そのためにはコミュニティづくりが大きな役割を担っています。

その一つが地域に生きる子どもたちの健全育成活動です。東富田地区の大人も子どもも共に活動する活動や、一宮下町づくりの料理教室活動は、子どもづくり、地域づくりの大きな力となっています。

また、丈六地区や川内地区も子どもたちの育成を図る努力を進めています。和太鼓クラブの指導や学校の環境づくりへの活動に深い思いが込められています。

北井上地区は、自主的に防災活動を行う連合会が発足し、心強い地区になりました。歴史ある佐古郷土誌の発刊により歴史を紐解き、より深い郷土理解につながるでしょう。(佐藤義忠 記)